
狐の住む街

銀之丞

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

狐の住む街

【Nコード】

N6686S

【作者名】

銀之丞

【あらすじ】

小学校の時の記憶が無い事以外は平凡な大学生の佐伯すみれ。大学に通う為に一人暮らしをして早半年。大学生活もカフェのアルバイトも充実していて一見悩み事とは無縁に思われる彼女だが、心の奥に得体の知れない闇を抱えている。そんな彼女だが、大学生活や恋愛を通して、次第に自分自身の欠陥に気付いて行く。その欠陥の正体と思い出せない過去が明るみに出た時、彼女は…

第一話（前書き）

初の小説です。じっくりやっていきますので、よろしく願いします！

第一話

《ドクン》

【…私は怖くて不安で仕方がなかった】

私は佐伯すみれ18歳。都内のアパートに一人暮らしを続けて早半年。友達も出来て、大学もカフェのアルバイトも充実している。今の所、悩み事らしい悩み事もない。

《ドクン》

【なのに何故…】

《ドクン》 《ドクン》

【真っ黒な記憶…何も見えない】

真っ暗闇の中で女の子が泣いている。
女の子『ちゃんと私を見て』

《ドクン》 《ドクン》 《ドクン》

【やめて！見たくない！！やめて！】

ジリリリリリリッ

目覚ましが鳴る。

すみれ『はあゝ、またあの夢かー…寝起き悪つ。』

すみれ『とりあえず大学いくか』

大学までは徒歩20分で着いた。

『よっ！』

後ろで誰かが背中を叩いた。由佳だ！新見由佳、大学で仲良くなった友達で、元気が良くて姉気質。講義に使うエネルギーをフットサルと恋愛に注ぎ込んでいるといった女だ。

由佳『らしくないじゃん！朝から暗いゾ！』

すみれ『それがさゝ、嫌な夢見ちゃって…』

由佳『優斗に飽きられた夢とか？』

すみれ『それなら平和になっていいんだけど…何の夢か思い出せないんだよねー。。。』

菊地優斗、大学の男友達。気に入った女にはかたっぱしからガンガンアタックしてくるタイプ。最近口説き文句に磨きがかかってきた。見た目はチャラ男。悪いヤツじゃないから毎度のアタックはやっぱり冗談で流す事になっている。

由佳『うわ、噂をすれば出たよ、爽やか王子』

優斗『おっすみれ〜』今日こそ午後映画行こうぜ！俺はお前の為に午後の講義は捨てる！』

すみれ『ありがと！でも、大好きな優斗が留年する姿は見たくないから、戸田の講義は出てあげてね』

優斗『ちっ今日はそう来たか！』

由佳『あたしじゃダメなの〜？』

優斗『お前はフットサルしか誘わねーよ』

……

……

……

由佳『すみれどうした〜？』

すみれ『えっあっ、ぼーっとしてた（笑）』

由佳『じゃ、あたし小田桐の講義だから！』

いつもの様に講義が始まる。催眠術の様な教授の口調にやられてか、後ろ半分は夢の中。前の方の学生達は真面目に資料をめくり、ノートをとっている。

すみれは、真ん中列の窓側で、かろうじてノートはとっていたもの

の、どこかボーッとしている。

【最近感じるこの気持ち、何だろう。むなしい…違う、寂しい…かな？とにかく、ノートだけでもとらなくちゃ！】

気が付いたら、時計は午後5時を指していた。

曇り空に涼しい風が、得体の知れない不安を運んで来る。

第二話

小雨が降ってきた。

雨のせいか、三人しか客がない喫茶店内で、すみれは食器を洗いつつながら考え事をしていた。

すみれ（ああ、やっぱり幼い頃の事が思い出せない。最近になって気になってきた。今度、実家に帰る時にアルバムでも探してみようかな。）

『…き』

『佐伯!』

すみれ『あつ、はい!』

小野寺直人『表情が固い!笑顔笑顔!』

うかつだった。考え事に夢中で、お客さんが帰る時に反射的な挨拶をしてしまった。

この人は小野寺直人さん。私のアルバイト先の先輩で、21歳大学三年生。

実は付き合っていたりする。

告白とかは無く、バイト上がりに食事やカラオケに誘われているうちに、そういう仲になっていた。

大人びていて、普段は優しいけど、バイトでは少し厳しい。そうこうしているうちに、夜になり、閉店の時間が来た。

直人『すみれ、この後空いてる？』

すみれ『ん？空いてるけど、』

直人『いやさ、急にドライブしたくなつてさ、幕張の海辺でも行かない？』

なんだ、そっちか…少しほっとする。

すみれ『花火したい！』

夜の海岸は静かで、人気も無く…なかった。カップルだらけ。

直人『…もう少し、静かな所にしようか。』

しばらく歩くと人気もなくなり、辺りは薄暗く、三日月だけが輝いていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6686s/>

狐の住む街

2011年10月7日15時19分発行